国立国会図書館　タイトル『げんぶく曽我』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

13-28

ぎんぶく曽我

文治元年正月十三日ヶ鎌倉殿頼根まゐて
とそきこゝまゐりたのひこさまゝ孫ゆはうま
くらとのゝ御まゐりとてこゝいしも衣を用意
しちこゝいしやうをぎんかうを　王中
かゝ門乃三なんたこゝまうとのいしやうの事
をはおもひはしようちてもなきしちこゝ
乃御事今のやうすおもひまして志のひの次
せきあへを　こしの式部をちりけてうま
くらとのゝ御氣りに我々お仕を申候それ

国立国会図書館　タイトル『げんぶく曽我』　請求記号　本別13-28
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『げんぶく曽我』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

さて祖ぶさしまう殿志紀ぬれゆふ我ともとして
けちん乃かうしのきいまてお　さをあまま
かうきのまけ法師と名のミ計いきくけまと
きまうこをはいまこみをうこ紀我とりてと
おほしめしかまくらとのゑいけ食うしまし
まれ武部殿とそとふおりまうしき殿此より
取りこいもん乃さしぬきにこそ志得しめさ
まこうこそ鎌倉殿まておもし両せたこまう
ゆるおろうの人のをしへ事やさまはとて
うまくらとのを見そんすへきふくあら祢せ

うこ紀をとりんかうめそうしすけ法師ひと
とふるこはしきふ殿ゆふかんぬこ何まことと
をしゆる事あもし八ケ国の大事小名此
名字をとひこ見んまうますけ法祢といふ者
まとひあこらぬ事をあらしとまこいとけ
なきあら祢ふもあん我まいまそおそろしき
拇君乃弓手のまきにな我られこうい誰以そ
あまこそ武蔵(むさし)にうくれな紀ち殿此しけこく
とや人まておもしませさそ又めくのまきに
な我られこういこまいそさうこの國此領人

国立国会図書館　タイトル『げんぶく曽我』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

まこ乃よしりとゆ人ゆそは又きこの法お
り中度り法き両しまはいい川くれ西れ
こまはそ伊豆乃くふの住人をうてうの四郎
ときまきとそ君のこゝめふは法しうと言法き
ろうはこまはそ母志ろのくまんしやのふ法な
とそ兄を伊豆ゆは大名なりその川きしくは
雑はそ　為んだけ母小笠原一条いこうき
なむ梅志を聖よみな法はたりといひ世まと
な我祐理ときうさり世り梅又宝ちんれかう
しをきこむきよちこ里とゐなうまこうは

こまはそあまこう扶摸大名よさん母なんま
去犯法ら屋と我こうこの國れ住人ふしこら
なりやまま皆法はこりと云けまとな我祐理と
きうさり世り　さそ又けちんのうし我
西む犯よちこ里とゐるうまこうはたまはそ
あまこそ伝説大名よふしなこうなしうむれ
こちつきいぬかひまは母原こもりしろとり
ちつとりこうこうなはともといひけまとる我
すけ法ひときうさうはちこまうよ法くむう
抱ひ法うなし　抱はまけ法孫は夜の法とこ

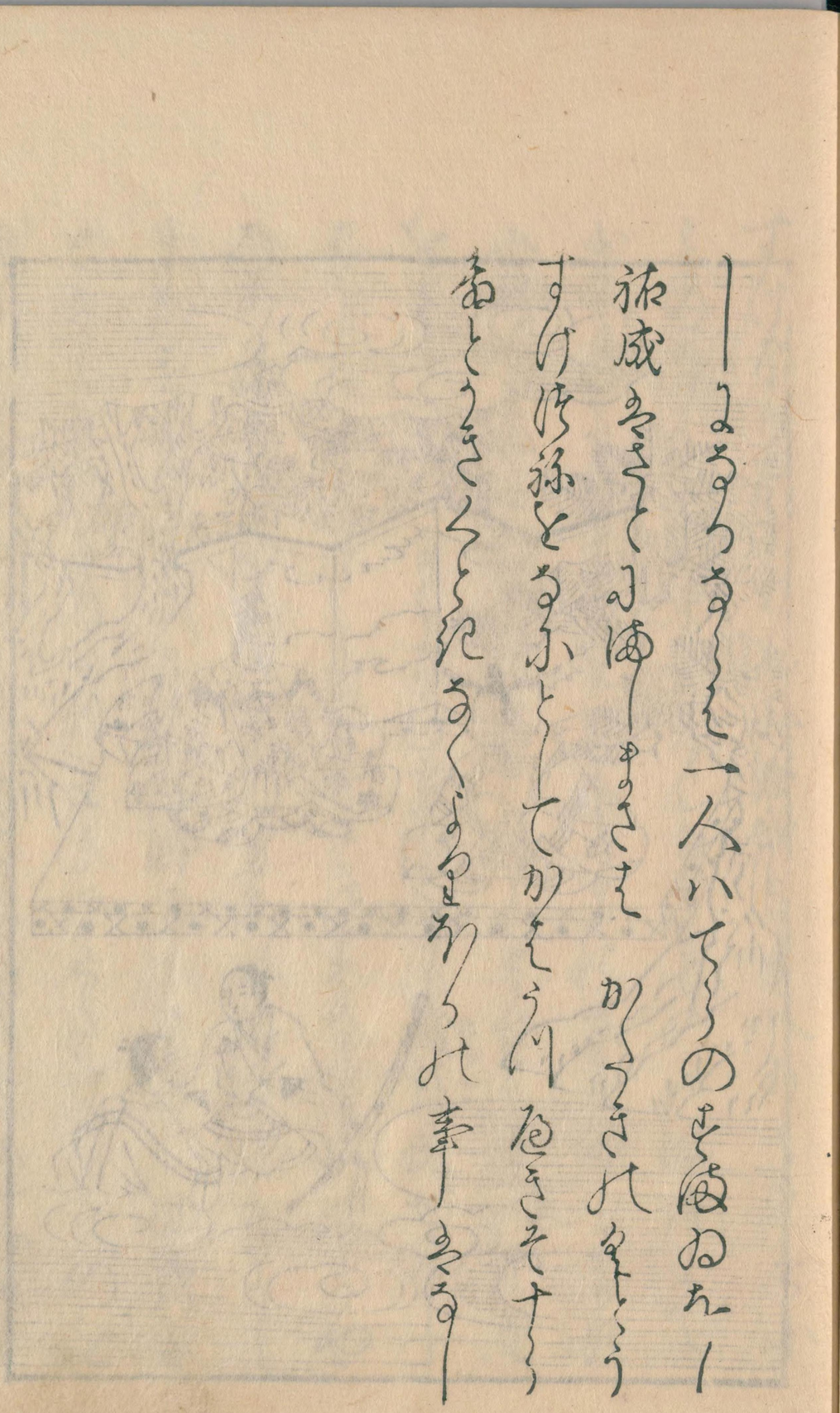
をはやさけりきりや清佛中そのなくは伊藤
乃大将にてあひさまつ産ゆはよもあらし
さらも海らんと思ひしろ又こちらへりとふ
こりきりさてあのらいもんのきいりうす
かうそめ乃記さ連我善さをゆくしけるり大
名いい門を乃國のたまはそしきふあのよし
うけこ海りり今まてしろしめされぬやあま
こそは身乃こめにはは服せむのいとこをとう
一郎すけ法〇とや人まておりしませ　新王
とのそ中右能こうこちらへりとふたりきれ

ようちまてまるましちくこにふまこし紙にても
あるんと抑りへも　歌なるをなつうしく
見されてあくまもこまうとのもうせんとし
てこそおはしきま　祐經何とかしろりきん
もこまうとのを見法けあふき我あけく見へ
しくとま孫紀きりもこまうとのハ法説して
かこきのようふかうれしさに大勢の中我のり
あえ案あくと我同く祐經かそもあそよつこり
きりすけ法〇もこまうとの我ひきれうへり
りきのせやいりに新王殿そまうしもは一そく

国立国会図書館　タイトル『げんぶく曽我』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『げんぶく曽我』 請求記号 本別13-28

ガラス使用



すけなりさう四ん小波我うへあらまきに
よのなり小兄弟よえんなさものハ助成まで
とゝめたりそまをいふとゆに京に両しまに
小次ら殿ハ頼乃住居と両しませたる方ハ本国
をえうたりなくさむ事をなし越後(ゑちご)成せんし
たうハ西たりくまでなとはまなし二ハこうや
乃あ孫こハ西よしゆうの方あるしをまし
まさをたてまうさへ法師なり　助成ハ
とをしな紀さのうへ世りいたけくそのを
思ふとも誰か何れととふ色きそ新五殿と

国立国会図書館　タイトル『げんぶく曽我』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

元ふくそう

うらり法し又たらしくとる紀語ふ　その義
なるはたとまうを母とこまありすけなり此
は供中色きかたし母上のはふをうりやは
へき法身男に成くはふとへ母上は梅けうは
とをそ遣りしよ紀やうりゆな紙を色しさ
らはゆりひこんとて法のところにうら
かつり　くはしき事我りきとむる　名義
をはなうりをはたこ孫のおやまにとゝめ垂
ふる所となきいのちをはめいとふ所ます
ちゝかる所とのにたてまつる志しやう同宿

人にあらうのかすをはかけまと思ひこう
ぬらひ衣又ようきてもあふ色けまうへを
うへををなうりはし乃志きふ女ゆふとうさ
とゝめ我乃まふ志のひかにうりたまる此家
をまちうひに屋けぬの露にそかぬまてそう
乃里にそくうりまう　まけあり母なせまう
屋うは屋うくはとゝりなす色きう志得し親
にはいかなる人を知色きそ伴豆(いり)のれ条をとう
へしけりなりうちうりていくゝ行色きそ助成
馬を用立まされうむまは一辺なりすけなり

むまをひきゆりし系やちこまうめされうへ
十郎殿すけなりきこしめされてあらねろう
乃云事やちこ我からまてあ西ませ大そく
の方としてるにのり後しをゆかうをなとれ
きやくなる事乃はへきう　いるるはるは
そ舎兄我からまてあ西ませ中弟の方として
るにのり後次我ゆかうすうなとれきゆく成
事乃はゆきうめされはへ十郎との　ちや
系や　ちこまうと兄弟る我志紀ないを時刻
うりて来時なをねがかことのよりまゆこ

とくめられていかるふましたこまうとのを
の里語へ助成をのるんとてむま一起きり
兄弟のりそうのさとをそおよをうと古を今
を来代をためしすくなき次弟なり　こ海を
ちやめく打なとに小系のうちに悪る場すを
まてむまよりねり門外ようこくすをけま

国立国会図書館　タイトル『げんぶく曽我』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

おゆしえまの小四郎いてあひていの事へれ
はと絶りそすけなりきこしめし是へ来る事
別乃子細なく六寸是なるまの事をお思ひ
こらせたくらてあまきまてまいりていえ海との
中古屋すきなとの事なくはさりなるらは
如条はやきうせんとてうちかいりいきはさ
かくとや　かうてうゆあへす海をさつと
うへこまひ　そまむりしは六十六ケ年を
一むりしとし中比は三十三ケ年当代は廿一
ケ年を一昔とは　あらむさんやけ人こよう

国立国会図書館　タイトル『げんぶく曽我』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

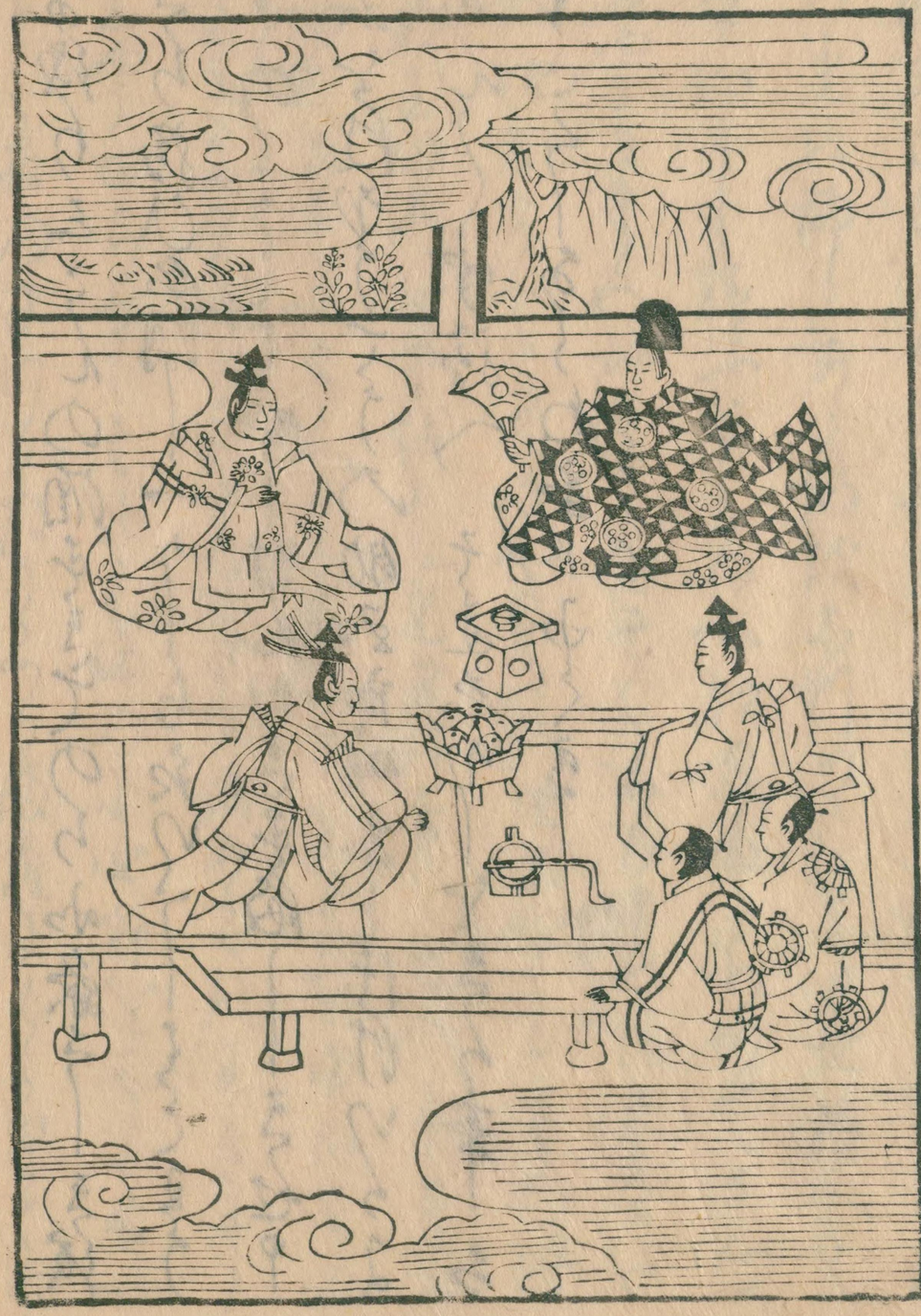
世まで忠孝ハ母や我れなるはまんしまでハ
ゆゑくらとの平家なるも小松殿の法おかく
忠孝ハ我きうすゝ人こゝ時代ハしたこゝふ
なるひとてもうもいをこのこきこる事ハ
あるまさよそまくこゝるこへ志ゆうせよとて
なけまとてゐ乃ちりをとり屋ま孫とまこれ
うける我しひきたくろへもまてふもや時
うつり処事をなりきり　もこまう母か
きふもらを立いふやす十郎殿ふしきやなえま
とのハなふとてなそく見ゆるそ屋かくふ

こり菅ハ伊藤なうてうとて為のふる所ハ羽
うひくる海乃里やうまのことくまてなとり
海さりまなりつるハ当きこの法代と聞く
我こ兄弟まよふなし者まてあひさふ家か
いゆしめて忠孝をきせしそのこゝめよ母
もしをそく見ゆるうを儀ふくあるはまは
八まんを法ちきんあまを今生此世まて母やハ
歌ハこゝすとをまんちうへみこれ入くなう
てうとさしちゝ人死なふすりまてハそやそこ
乃なくをは十郎殿も法男定あまとそ申きん

助成さこしめされてよしく小条をさい思
り事は両しあ後我志行めくまゝ世給へと
せいし給ふところへ江高殿ゆりてさん
志やうりまゝ以とてをそく来りやてはこゝ
へ法おりへとてきやうゝ我志やうをその時
新王いろをな我し兄弟法事くそ入り来ら
一ゆいちて又家人なまはたこまうをゆんての
まきまな我しすけなり我めくれまきり
志やうせらるゝを外え両の小四郎をたし此一
そく家乃子やりたうゝる両座まちまとゐ

な我り三こんの酒をきてのち小条さしき我
さら給ひ志用し一りしら知いこしたこまう
とのくうこたちや知んかきを後しき世や
名をはなうてうの助五郎時家と法けいりま
めんゝ守給へ　そまゝ志なりしをきる事を
まこくしなるぬ事ふくを

国立国会図書館　タイトル『げんぶく曽我』　請求記号 本別13-28
ガラス使用



清和天皇此御代乃時吳王ありて我物へ給ひ物を
まことさまこうりきをやう處上人納言さい相以下
小面うくまんむくまん関白殿下さしあ川まつて
乃せんきなりみとえいらんましくて是を
おのこの海志ぬ名をは忘れしといふ事の
なりなりハ大海法ふ名れしくかさハ半月
とりなハ玉のたけきさうさくられひろき
事をいのちの長きさうまてありてゆい我
ゆひてきう夏をさなりしゆゑのもんふく
乃海るひなり此忘れしをきう人をいのちを

十五

元ぶくそう

なりくるをこうる事命長遠虚自在冨貴此家
に生るゝなりしの忠頼に給はれてすゑたん
志ゆうといはひ法くうらと助うるをとり制し
たてまうとのにひき給ふ　助成法らんして
うましやとはのゝ後りてなきて我さんとう
うへたまひあらはれしやむりしかいまに
いたるまて忠頼子のかたよりも忠頼親
乃助さへこそ引出物をはやなひ此に
有る給りる事乃はれしさまと知りへた
あせをなきこをりろとりふとゝめうほうる計

なり　ゆうてうとの法論志くあらむさんや
助成才ゝ鳶帽子（ゑがし）我をうかとふまし首を思ひ
いたし後乃ふせいのなれさまをけなりゝ
あら後ををなくさめたやとおほし給しさけ
こふくとひうへ給ひ義いまをちゝ後に六郎
長三浦りあさいな曽我に十ら長一師り
付く葉ならいせ給ふゝ中に十郎長此法葉
すくれたるよし形るあまはいたてまうとのく
志うきんるまはたく一ゝなてとていまたり
すけなり此右後りしをのとはねをいまけま

国立国会図書館　タイトル『げんぶく曽我』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『げんぶく曽我』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

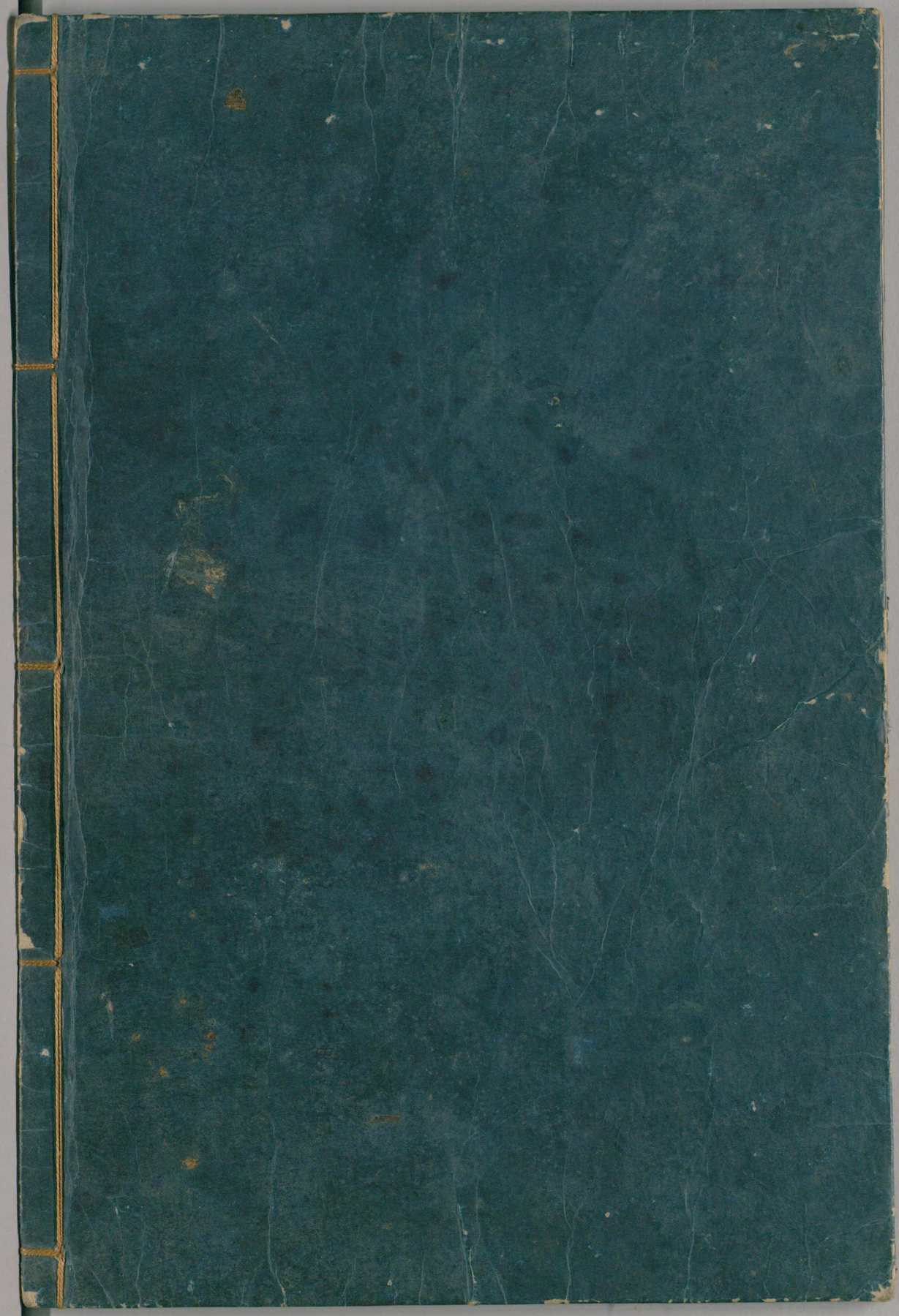
別13
25
28

元ふくそう

十七ゟ

志川や志川綫乃をくまきくりかし 黄紙今に
なすよしをうな むりし 我今になさんやと
屋くしきくらひしりあらわしともなるや元い
むしやうのこいそめし まひな我さんやと
却りひて和方のこいをそあけりきりさ
我ちしめく却りむにはる子代を種ね毎しひめ
小松くと三匹ふんえ海り逢ん小条をたし
め乗り逢ん産をし人と一度りしあつとうん
しかりまりひを通きはいとう海をあふ
て兄弟曽我ふつさとにうへりかり

国立国会図書館　タイトル『げんぶく曽我』 請求記号 本別13-28
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『げんぶく曽我』　請求記号　本別13-28

ガラス使用